隠れたひみつを大公開!

マリオ映画の攻略本

はじめに

実は、『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』の中には、これまでのいろいろなマリオのゲームや任天堂に関するネタが隠されています。
この本は、劇中に隠されたネタのいくつかを紹介する、言うなれば「マリオ映画の攻略本」です。
『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』をご覧になるときは、ぜひこの攻略本と一緒に隠しネタを探しながら、映画を「攻略」してみてください。

© Nintendo

登場するなかまたち

カメック

クッパ

パタパタ

ノコノコ

ノコノコ将軍

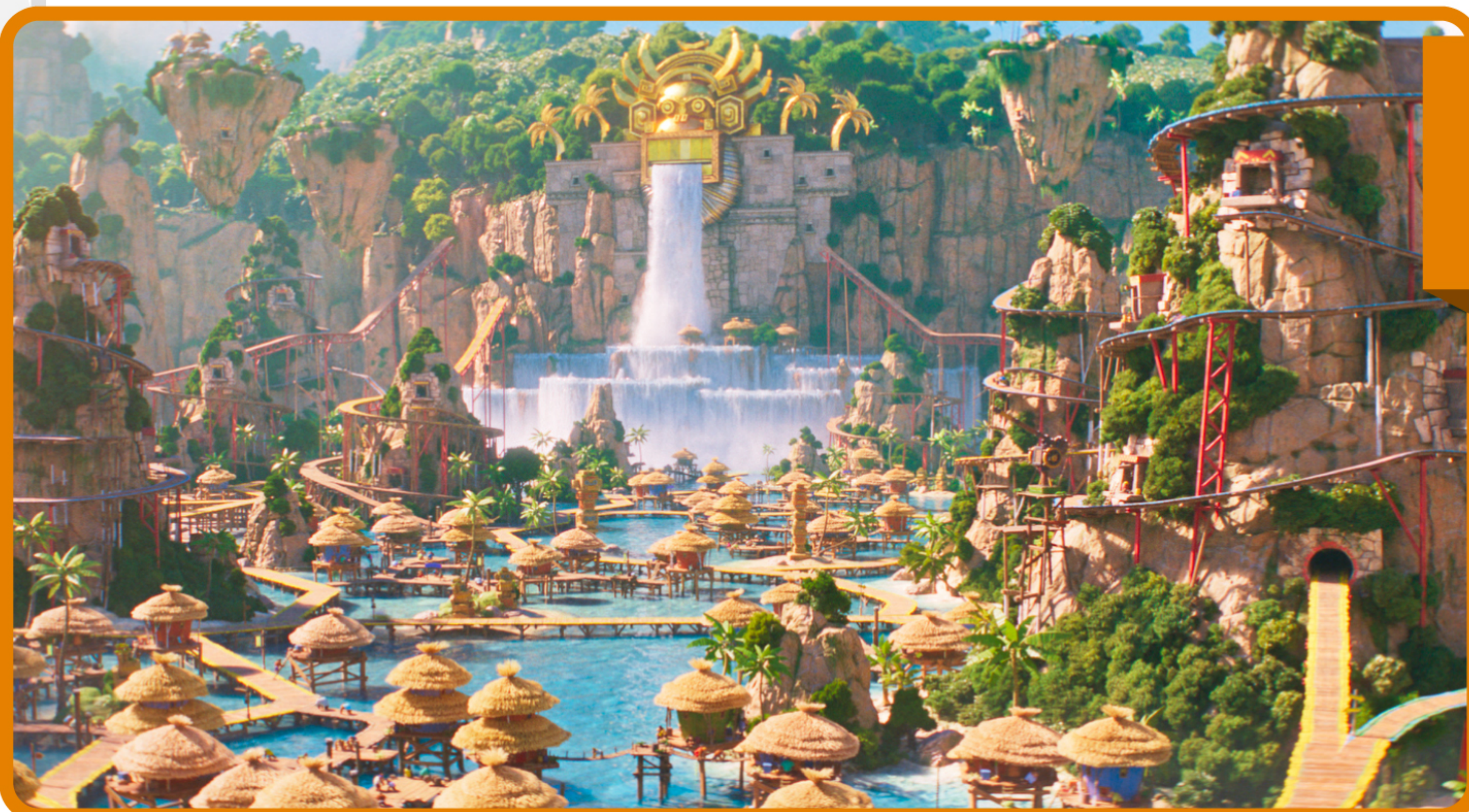
クリボー

登場する場面

ブルックリン

マリオとその家族が住むニューヨークにある町。マリオたちはここで配管会社を営んでいる。

キノコ王国

ピーチをお姫様とする王国。ピーチ城とその城下町には多くのキノピオたちが住んでいる。

ジャングル王国

ドンキーコングたちの住む森の中にある王国。ツワモノのコング兵士たちが多く存在する。

その他

空とぶマリオとルイージ

マリオとルイージの配管会社「スーパーマリオブラザーズ」のプロモーションビデオのワンシーン、マリオとルイージが黄色のマントをつけて空を飛んでいる。『スーパーマリオワールド』で変身するマントマリオとルイージにそっくり。

【マントマリオ】

スーパーファミコン用ソフト『スーパーマリオワールド』にはマント羽根というアイテムが登場する。取るとマリオが黄色のマントを身に着けたマントマリオに変身。助走をつけてジャンプすると、そのまま空中を急上昇し、最高点に達したあとはマントをつかんで空を飛ぶことができる。

マメ情報 マントでの飛行から急降下して地面に落ちると、「ドスン」と地面を揺らして周りにいる敵を倒すことができる。

通りの名前

プロモーションビデオをよーく見ると、「Hanfuda通り」と「1889番通り」という2つの通りがあることが分かる。任天堂の創業が1889年で、創業時に始めた事業が花札の製造だったことに由来している。

【花札】

花札の製造から始まった任天堂はその後トランプや百人一首、囲碁、将棋、麻雀牌などさまざまな娯楽製品の製造販売を手掛けた。ゲーム機がメインになった現在も花札の販売を続けていて、伝統的なデザインとマリオキャラクターを融合した『マリオ花札』なども販売している。

マメ情報 花札は1月松、2月梅、3月桜などその月折々の花や植物をあしらった風流な絵でデザインされている。12ヵ月×4種類の合計48枚で構成される。

アーケードゲーム

マリオたちがよく行くピザ屋さんの店内。奥にあるアーケードゲーム機には「JUMP MAN」のロゴが確認でき、画面には『ドンキーコング』のようなゲーム画面が映し出されている。

【ジャンプマン】

1981年のアーケードゲーム『ドンキーコング』に初めて登場したのが赤い帽子に口ひげ、オーバーオールが特徴の「マリオ」。ただし、当時まだ「マリオ」という名前がついておらず、ジャンプしてタルを飛び越える動きから「ジャンプマン(JUMP MAN)」と呼ばれていた。

マメ情報 『ドンキーコング』の「ジャンプマン」は、1982年のゲーム&ウオッチ版で「救助マン」という名前になり、1983年のファミリーコンピュータ版で「マリオ」になった。

マリオの元上司

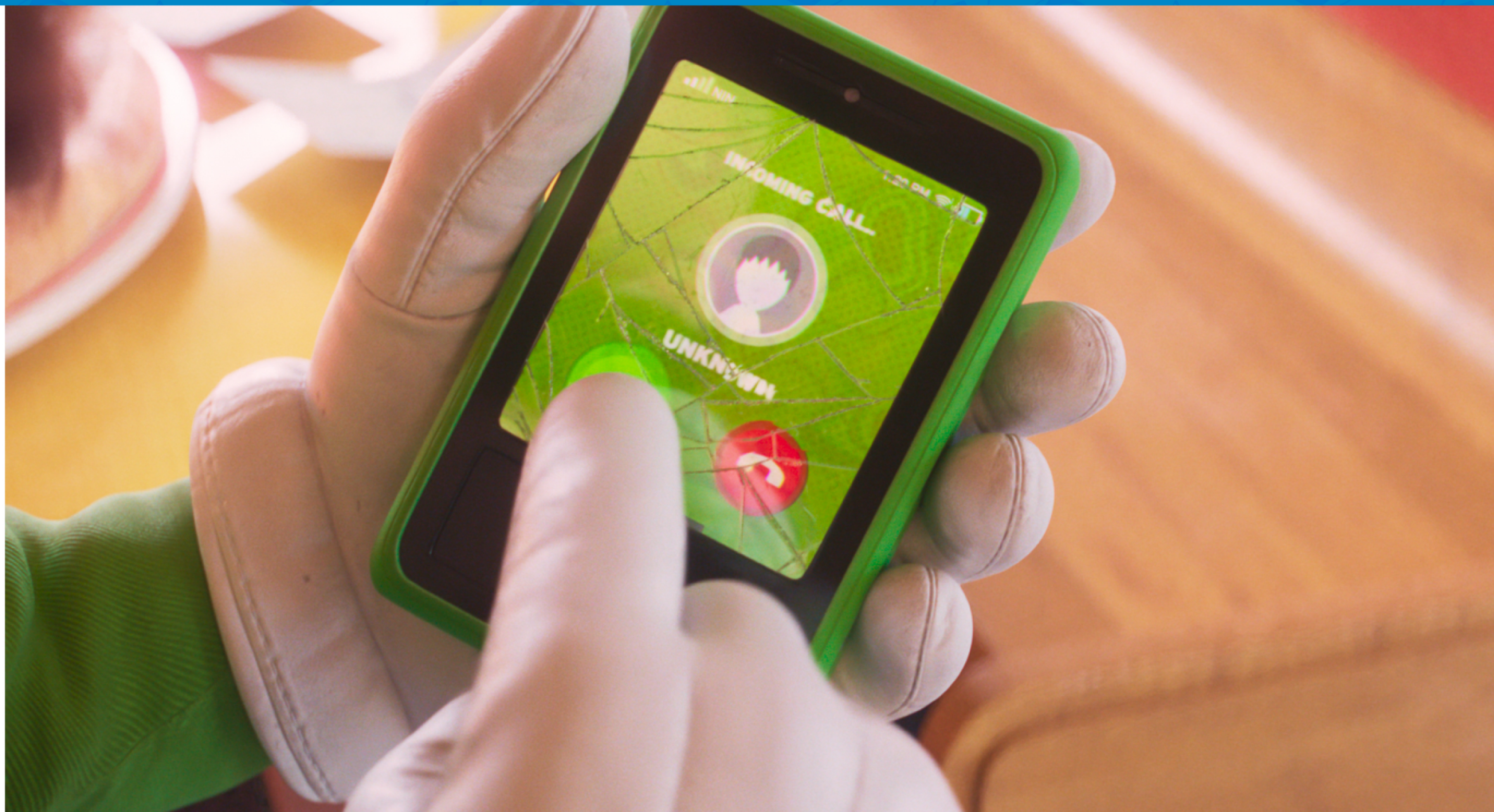
マリオの元上司として登場するスパイク。帽子と運転するバンには『レッキングクルー』と彼の会社の名前が書いてある。『レッキングクルー』というゲームがあり、スパイクはゲームに登場する敵キャラクター。

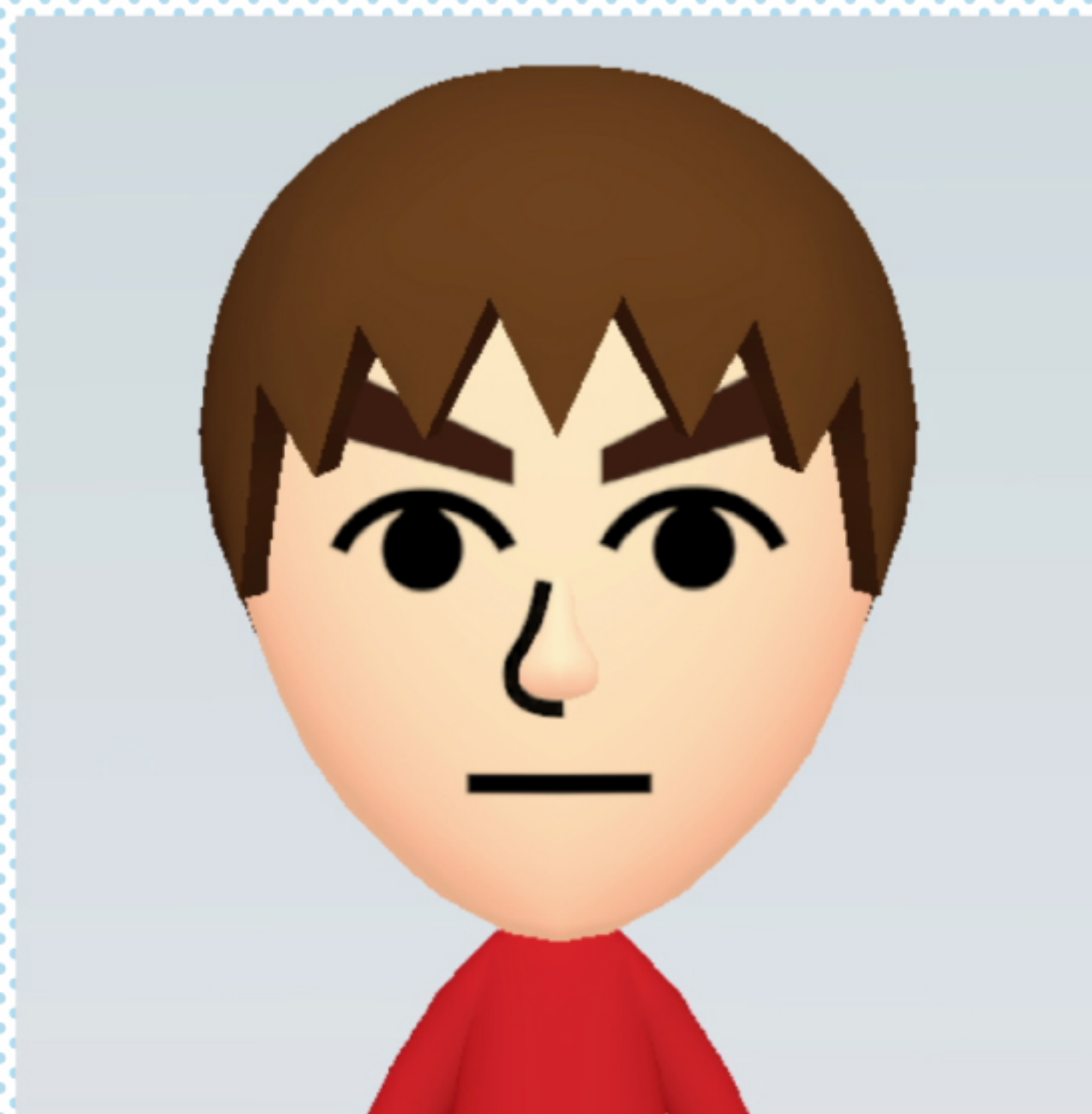
【レッキングクルー】

1985年発売のファミリーコンピュータ用ソフト。ビルの解体屋になったマリオとルイージが、ステージにある壁を壊しまくるアクションゲーム。スパイクはプレイヤーの邪魔をする意地悪おじさんとして登場する。ドットで表現されたスパイクも立派なあごひげを蓄えている。

マメ情報

『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』で活躍するマリオとルイージの仕事は配管工だが、『レッキングクルー』のマリオとルイージの仕事はハンマーで壁を壊すアクションからもわかるとおりビルの解体屋だった。

スマートフォンに表示されるアイコン

マリオとピザ屋にいる時に着信がきたルイージのスマートフォンに表示されるアイコン。よく見ると任天堂のいろいろなサービスで使えるMiiの形をしている。

【Mii】

Miiは、目・鼻・口・眉・りんかく・髪型など、パーツ種類を組み合わせ、位置や大きさを調整して作る、あなたの顔に似せたオリジナルキャラクター。対応するゲームで使うと、ゲームの中に登場する自分のキャラクターとして操作することができる。

マメ情報 ニンテンドー3DSのカメラでは自分の顔を撮影した写真からMiiを自動生成することができた。

工事現場の隣のハンバーガー屋さん

マリオとルイージが最初のお客さんのところに向かうシーン。工事現場を抜け、最後にバーガーショップの看板に飛び移るのだが、このお店『スーパーマリオブラザーズ』の砦にそっくり。看板や降りるアクションもコースクリアのシーンをイメージさせるものになっている。

【ゴールポールと砦】

『スーパーマリオブラザーズ』ではコースの最後にゴールポールと砦が設置されていて、このポールに飛びついてつかまることでコースをクリアする。つかまる場所の高さによって、200点～5000点のボーナススコアがもらえる。

マメ情報 ゴールしたとき、残りタイムの下一桁目が1、3、6の時にはその数だけ花火が上がる。花火は1発500点、6発なら3000点になる。

アイスクリームショップの看板

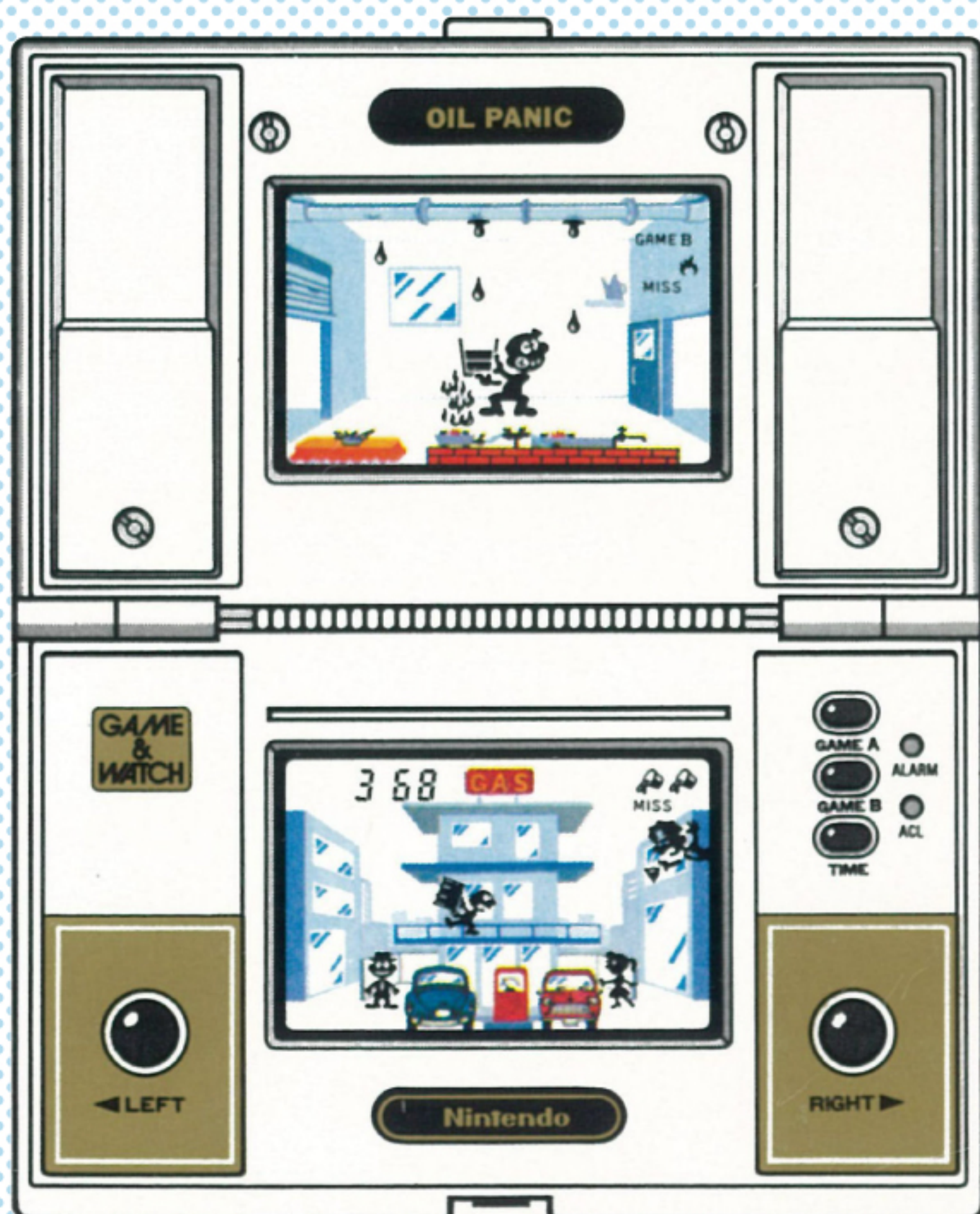
ブルックリンの街角にあるアイスクリームショップの看板には、サングラスを掛け、パンツを履いた白くまのイラストが。『アイスクライマー』に登場する「ホワイトベア」だ。

【アイスクライマー】

1985年発売のファミリーコンピュータ用ソフト。ハンマーで天井のブロックを崩し、次のフロアにジャンプ。落ちないように足元に注意しながら山頂を目指すアクションゲーム。「ホワイトベア」は長い間同じフロアにいると出てくる要注意キャラクター。

マメ情報 『アイスクライマー』では1Pは青い服を着た「ポポ」、2Pはピンクの服を着た「ナナ」を操作する。このコンビは『大乱闘スマッシュブラザーズSPECIAL』などにも登場する。

トラックのイラスト

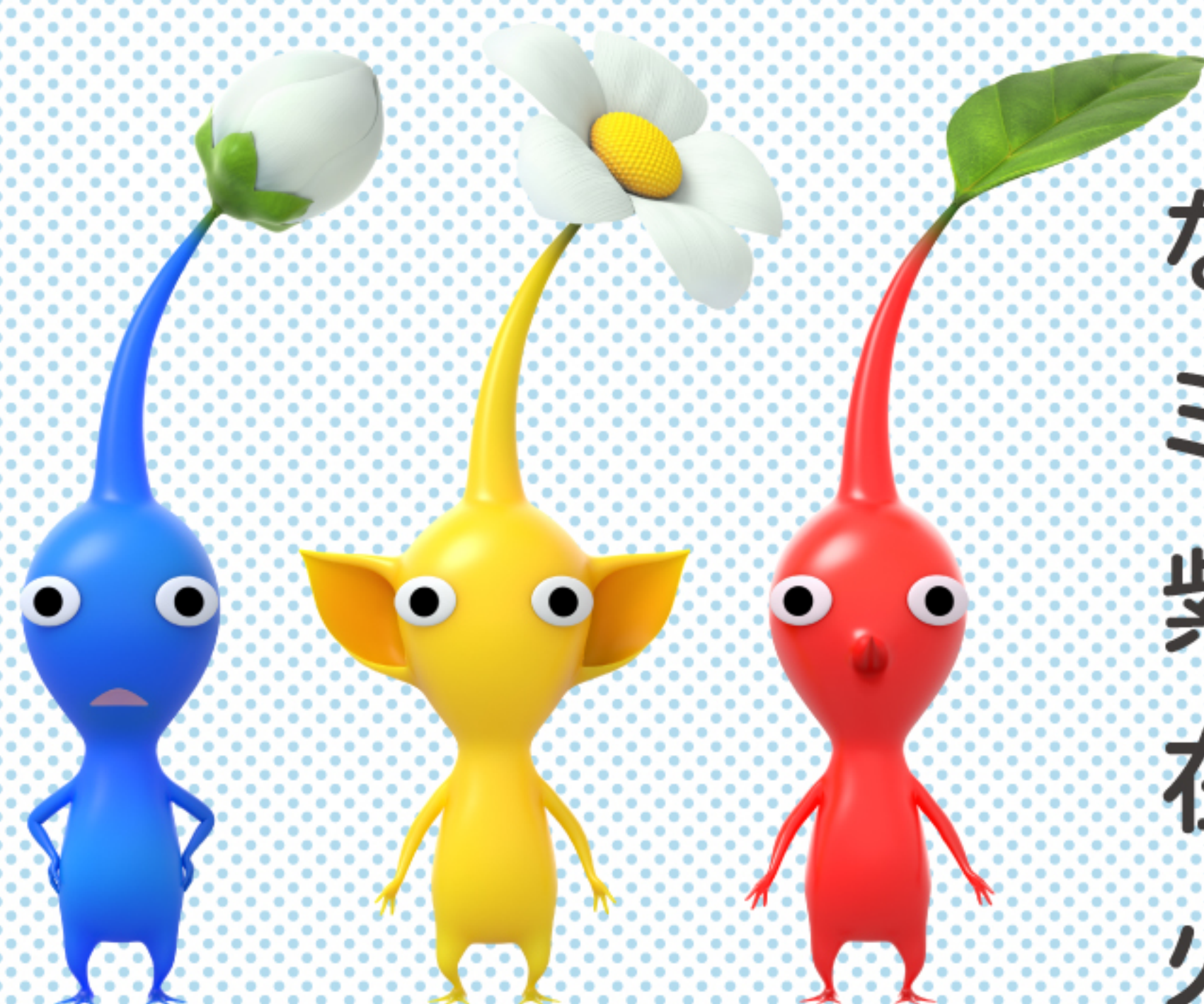
マリオとルイージが最初のお客さんのもとに向かうときに路上に駐車されているトラック。車体には「ゲーム&ウオッチ」の『オイルパニック』に登場したキャラクターが描かれている。

【オイルパニック】

『オイルパニック』は1982年に発売された「ゲーム&ウオッチ」。マルチスクリーン型で上下2画面を両方見ながらプレイする。上の画面ではパイプから漏れるオイルをバケツでキャッチし、タイミングよく下の画面にいる人に渡していく。

マメ情報 「オイルパニック」のほか「ボール」「マンホール」「パラシュート」「オクトパス」などなど、ゲーム&ウオッチの種類は50を超えている。

リビングの置物

窓の外では犬のフランシスが絶体絶命のピンチにもかかわらず、のんびりとくつろぐ飼い主たち。このシーンでリビングの右端に映り込んでいるきれいな置物、頭から葉っぱが生えたこのシルエットは・・・そう、不思議な生き物「ピクミン」。

【ピクミン】

植物でもない動物でもない不思議な生き物ピクミン。青、黄、赤、羽、岩、白、紫、氷、ヒカリ、9種類の存在が確認されている。赤は火に強く、青は溺れない、黄は高く飛べるなど、それぞれ特徴がある。頭の葉っぱは、つぼみ、花の順に成長していく。

マメ情報 赤、黄、青は一見色が違うだけに見えるが、赤は鼻、黄は耳、青はエラがあり、それぞれ形状も異なる。

マリオがプレイしているゲーム

落ち込んだマリオが部屋にこもってプレイしたゲームは、『光神話 パルテナの鏡』。ちなみにゲーム機は海外版のファミリーコンピュータであるNES（Nintendo Entertainment System）。

【光神話 パルテナの鏡とNES】

1986年発売のディスクシステム用タイトル。パルテナの親衛隊長ピット君が主人公。メデューサによって闇の国と化したエンジェランドに光を取り戻す。アメリカではディスクではなく、NES用カセット『Kid Icarus』として発売した。

マメ情報 『Kid Icarus』の続編であるゲームボーイ用ソフト『Kid Icarus: Of Myths and Monsters』は日本未発売。

街のレストラン

水が溢れた街でマリオとルイージが地下水道に下りるシーンに映るレストランの店名“Chasse au Canard”、日本語に訳すと『ダックハント』。お店の看板や窓の装飾には『ダックハント』に出てくるカモが描かれている。

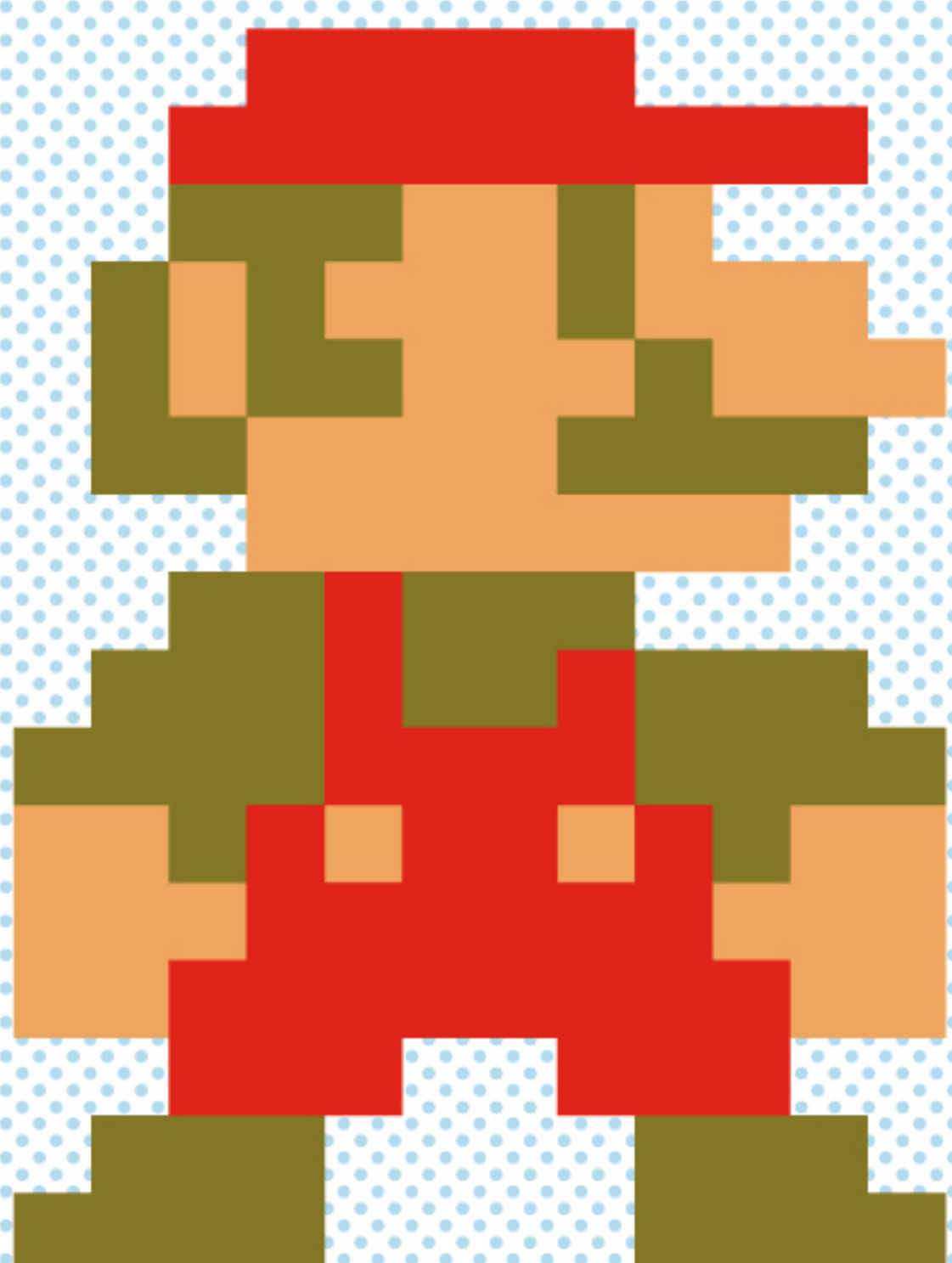
【ダックハント】

1984年発売のファミリーコンピュータ用ソフト。銃型コントローラ「光線銃シリーズ ガン」を使ってカモやクレーを狙うシューティングゲーム。仕留めた獲物を回収する猟犬がいるが、射撃に失敗すると「クックック…」と笑うなかなかの曲者。

マメ情報 アメリカでは、NES本体とセットになっていたり、『スーパーマリオブラザーズ』とセットで1つのカセットになっていたりしたため、とてもたくさんの人に遊ばれている。

壁の穴のかたち

下水道の調査に向かったマリオたちが滑り落ちてたどり着いた、長年使われてこなかった不思議な空間。このときに空いた壁の穴、よく見ると右を向いた8-bit マリオの頭のかたちになっている。

【8-bit マリオ】

これはファミリーコンピュータの時代のマリオ。当時の技術では制約があったため、16×16のドットで表現する必要があった。細い口は口ひげで隠し、髪の毛の動きを隠すために帽子をかぶせた。上下では分けにくい服もオーバーオールにして効率的にアクションを表現している。

マメ情報 初代『スーパーマリオブラザーズ』では、マリオはオーバーオールが赤、シャツが茶とほかのゲームと配色が異なる。ちなみにルイージは白と緑。

洗車場の看板

マリオが再び街に戻ってきたときに映り込む洗車場の大きな看板。右上には洗車のシャボンに紛れて『バルーンファイト』のプレイヤーキャラクターがふわふわと浮いている。

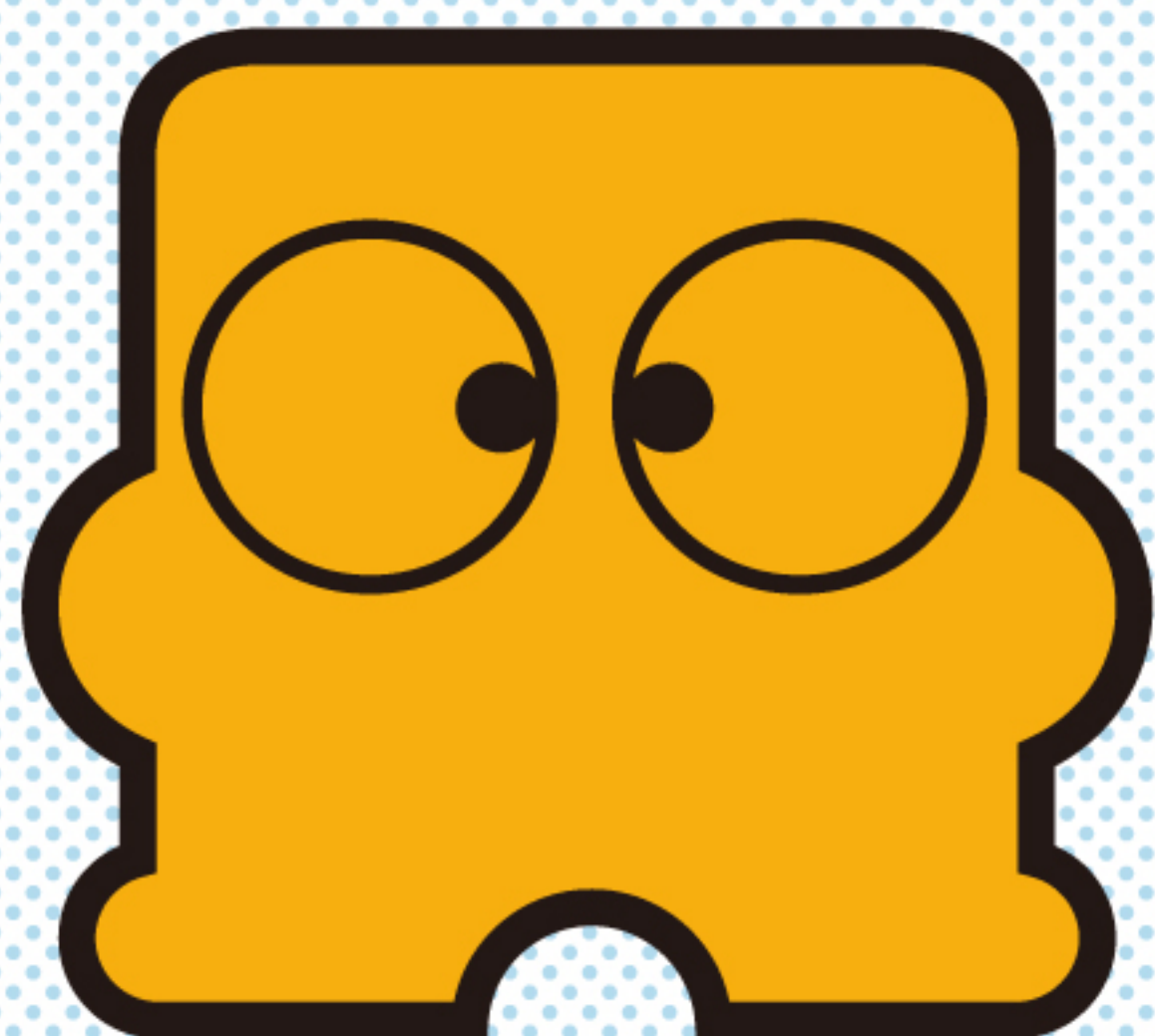
【バルーンファイト】

1985年発売のファミリーコンピュータ用ソフト。風船で空中に浮かび、体当たりで敵の風船を割って倒していくアクションゲーム。勢いがつくとなかなか止まれない、ふわふわした独特の操作感が特徴。協力プレイのはずが、いつの間にか対戦になってしまう2人用モードも。

マメ情報 『バルーンファイト』のふわふわ動く独特の操作プログラムは後に『スーパーマリオブラザーズ』でマリオが水の中を泳ぐプログラムのヒントになった。

街の電気屋さん

クッパ軍団との最後の戦い。このシーンに映る電気屋さんの看板にはディスクシステムのディスクカードをモチーフにしたキャラクターと『DISK-KUN』の文字が描かれている。

【ディスくん】

1986年発売のファミリーコンピュータディスクシステム。磁気ディスクを採用したディスクカードはA面、B面、両面にデータを書き込むことができ、その容量は当時のカセットよりも大きかった。このディスクカードのマスコットキャラクターが『ディスくん』。

マメ情報 当時おもちゃ屋さんにはディスクライターという機械が設置され、遊び終わったゲームは500円でほかのゲームに書き換えることができた。

キノピオのセリフ

マリオとキノピオがピーチ城に着くと、門を見張るキノピオたちに「Our Princess is in another castle」と追い返されてしまう。これは『スーパーマリオブラザーズ』でキノピオが助け出されたときのメッセージと同じもの。

【Our Princess is in another castle】

1-4、2-4など各ワールドの最後のコースにはクッパがいるのだが、8-4以外はクリボーやノコノコが化けたもので、クリアしてもピーチ姫を助けられない。代わりに助けたキノピオのセリフが「Our Princess is in another castle(僕たちのお姫様はここにはいないよ)」。

マメ情報 各ワールドのクッパはオノで橋を切って落とす以外にもファイアボールを5発当てることで倒すことができる。この方法だとクッパの正体がわかる。

闘技場の観客

マリオとドンキーコングの決闘の場になった闘技場。その決着を見届けようと、観客席にはたくさんのコング一族がドンキーコングの応援に駆けつけている。そんな中に、赤キャップのディディーコングと黄色ポニーテールのディクシーコングの姿が。

【ディディーコングとディクシーコング】

ディディーコングは1994年発売のスーパーファミコン用ソフト『スーパードンキーコング』、ディクシーコングは1995年発売の同『スーパードンキーコング2』で初登場した。『スーパードンキーコング2』では、さらわれたドンキーコングを助け出すため、ディディーとディクシーが協力して冒険する。

マメ情報 ディクシーコングのポニーテールはただのチャームポイントではなく、振り回すことで敵を攻撃したり、遠くまでジャンプしたりできる。

作戦会議をする部屋にあるマップ

作戦会議をする部屋の壁には、キノコ王国など他の王国が描かれたマップが貼ってある。このマップのデザイン、よく見ると『スーパーマリオワールド』に出てくるワールドマップのようなテイストでデザインされている。

【ワールドマップ】

1990年に発売されたスーパーファミコン用ソフト『スーパーマリオワールド』では、ヨースター島、ドーナツ平野などいくつものワールドがあり、マリオはそれぞれのワールドにあるコースをクリアしながら進む。

マメ情報 『スーパーマリオワールド』には、ワールドマップに登場しない隠しエリアとして、雲の上にある「ネイティブスター」が存在する。

砂の国

マリオたちがキノコ王国からジャングル王国に向かう途中、いかにも暑そうな砂漠を通る。空には逆さになったピラミッドが。『スーパーマリオ オデッセイ』の「砂の国アッチーニャ」を連想させる。

【アッチーニャ】

Nintendo Switch用ソフト『スーパーマリオ オデッセイ』に登場する砂の国。広大な砂漠に囲まれ、あちらこちらに遺跡が点在する。カラフルな建物が並ぶ街にはドクロの顔をしてポンチョを着たアッチーニャ人が住んでいる。

マメ情報 『スーパーマリオ オデッセイ』に登場するポリーンというニュードンク・シティの市長は、『ドンキーコング』ではレディとも呼ばれていた。

おわりに

いかがでしたか？
知っているネタはあったでしょうか。
『ザ・スーパーマリオブラザーズ・ムービー』の中には、ここでご紹介したもの以外にもたくさんのネタが隠されています。
繰り返し見返して新しい隠しネタを見つけられたら、ぜひ家族や、お友達にも教えてあげてくださいね。